

チエロの響きが
心揺さぶる
ロングラン作品

火よう日のごちそうはひきがえる

原作
ラッセル・E・エリクソン
(評論社刊)

脚色・演出 幸見彦
音楽(チエロ) 田村賢一
美術 清水正年・幸見彦

「その火よう日はわしのたんじょうびで、
たんじょうびの特別なごちそうは、
真冬に見つけたひきがえる、というわけだ」

真冬に見つけたひきがえる、というわけだ」

ひきがえるのウォートンは、
トゥーリーやおばさんに

美味しい砂糖菓子を持っていく途中、
ミミズクに捕まってしまう。

「たんじょうびのごちそうにする」
と言われて、

ウォートンは絶体絶命！
なんとかミミズクの巢から

逃げ出そうとするのですが…

BGM チエロ生演奏 Ver.あります！

※上演料は別設定。日程によってはご希望に添えないことがあります。
詳しくは実務資料をご覧ください。

みんなの感想

- ◆ウォートンとミミズクの会話にハラハラしたり笑ったり、目が離せない人形劇です。最後のシーンは何度みても心に染みます。
- ◆どんな逆境でも諦めないウォートンの姿に、大人も勇気をもらいました。
- ◆家族や大切な人とゆっくりお茶をのんでお喋りしたくなりました。

ウォートンは、どんな事も楽しいものになってしまう様なエネルギー溢れるひきがえるです。
自分を捕まえて食べると言うミミズクの部屋で、ウォートンは「せめて気持ちよく暮らしたい」と大好きな掃除をし、お茶を飲み、ミミズクに話しかけます。
ウォートンと、ひとりで生きているミミズク。違う生き方をする二人の間に様々な想いが行き交います。彼らの中に生まれてくるものを、真冬の森の世界、土や風と一緒に感じてほしいと思います。